

## 研修にあたっての参考資料(ワークシートの補助教材)

### ■ インターネットの主な特性

インターネットと適切に付き合うためにはその特性を理解しておく必要があります。インターネットの主な特性をご紹介します。

#### ○ 公開性

インターネット上での書き込みは、基本的には広く公開され、世界中の誰からでも見られる可能性があります。身内だけでのやり取りだと思って、公開のサービスに不適切な写真や情報を掲載して起こるトラブルや、閉じられたサービスだと思って発信した情報が、公開のサービスに転送されるというトラブルが頻発しています。

したがって、インターネット上での書き込みは、どんなサービスであっても公開される可能性があるのだという感覚を持つと同時に、著作権・肖像権を守って発信しなければならないという意識を持つことが大切です。

#### ○ 記録性

一度発信した情報は、取り消せないことが多く、必ずどこかに記録が残ってしまうことを理解する必要があります。また、名前を書かない場合であっても、誰が発信したかという記録が必ず残ってしまう仕組みがあります。インターネット上の過去の書き込みを調べることは容易なので、進学や就職・転職といった場面で、過去の書き込みを遡さかのぼって調べられるといったトラブルが起きている。

#### ○ 信憑性びよう

インターネット上には、誰でも情報を発信できるので、信用できない不確かな情報も多く存在します。そのため、情報を取得する際には、正しいかどうかを必ず確かめなければならないという感覚を持つことが重要です。コミュニケーションを行う相手個人の確認だけでなく、情報が掲載されているwebサイトや、情報の提供元が信頼できるか確認する必要があります。

#### ○ 公共性

情報をやり取りする費用は発信者だけではなく、受信者も負担しなければならないため、相手にとって必要のない情報を大量に送りつけることは迷惑であること、また、インターネットは有限の資源なので、無駄な情報を大量に送受信することで、緊急性の高い情報が行き渡らなくなる可能性があります。そのため、インターネットを利用する際は、公共のものであるという意識を持って利用する必要があります。

#### ○ 流出性

最も危険な特性であり、接続しただけで、自分のコンピュータに侵入されることや情報を取り出されるような危険な仕組みがあるため、信用できないwebサイトには接続しないことを理解する必要があります。

## ■ 本教材に関わるキーワードの説明

### ○ アンコンシャスバイアス

人間の一般的心理特性で、「無意識の偏見」「無意識の思い込み」などと訳されます。自分の経験や育った環境、社会属性によって、自分でも気づかないうちに持つようになった物事の見方や考え方のゆがみ・偏りのことを表します。

### ○ フィルターバブル

アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々の利用者にとっては望むと望まざるとにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル(泡)」の中に孤立するという情報環境を表します。

### ○ エコーチェンバー

ソーシャルメディアを利用する際、自分と似た興味関心をもつユーザーをフォローする結果、意見をSNSで発信すると自分と似た意見が返ってくるという状況を、閉じた小部屋で音が反響する物理現象にたとえたものです。

### ○ オンライン脱抑制

インターネットの持つ匿名性により対面状況ではかかるはずの抑制がインターネット上では効かなくなる傾向があることを表します。

## ■ インターネット上での誹謗中傷により社会的制裁を受けることがあります。

インターネット上での誹謗中傷は、内容によって名誉毀損罪や侮辱罪などの刑事責任を問われる可能性があるほか、被害者から損害賠償を請求される可能性があります。また、企業など所属している組織から解雇されるといった処分を受ける可能性もあります。

あなたの投稿が誰かを傷つけることがないか、発信する前にもう一度見直しましょう。

※名誉毀損罪は事実を摘示し、公然と、人の社会的評価を低下させることで問われる罪です。

※侮辱罪は、事実を摘示せずに、公然と人を侮辱することで問われる罪です。具体的には、事実を摘示せずに、不特定又は多数の人が認識できる状態で、他人に対する軽蔑の表示を行うと、侮辱罪の要件に該当することになります。

※匿名で投稿しても、発信者の情報が特定されることがあります。